

天神信仰

菅原道真(845-904)が大宰府で追放され亡くなりましたが、その霊は今も生き続けています。道真は死後、天神として神格化され、学問・文化・芸術の神として信仰されています。道真は死後、とりわけ一般の人々を中心に多くの信徒を集めました。多くの門徒は口伝で教えを受けており、彼の姿を表した彫刻や絵巻物、絵画が天神信仰をさらに広めました。

天神としての道真の描写は非常に様々です。学者の座にあった道真の容姿に近いものや、死後に起こった天災はおそらく彼の神霊である天神の仕業であるという初期の考えからか、激しい表情を浮かべたものもあります。他の姿は当時の流行様式に合わせて改変されています。禅が広まり始めると道真の像も変化しました。道真が中国の伝統的な頭巾とローブを身にまとい、咲いている梅の枝をつかむ様子が描かれたものもあります。

天神信仰は何世紀にもわたって増え続け、現在、日本には 12,000 を優に超える天神の総本宮があります。